

(別表第1)

## サービス評価結果表

### サービス評価項目

(評価項目の構成)

#### I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

#### II. 家族との支え合い

#### III. 地域との支え合い

#### IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

#### 【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 7 年 2 月 25 日

#### 【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 7名	(依頼数) 9名
地域アンケート回答数	1名	

#### ※事業所記入

事業所番号	3873500767
事業所名 (ユニット名)	グループホームぽかぽか
記入者(管理者) 氏名	谷川守見
自己評価作成日	令和 7 年 2 月 7 日

(別表第1の2)

<p>【事業所理念】 認知症高齢者が、自らの家で普通の生活を送ることが出来るような環境作りをし基本方針として「ゆったりと自由な暮らし」「穏やかで安らぎのある暮らし」「自分で出来る喜びと達成感のある暮らし」「自分らしさや誇りを保った暮らし」が出来るようなケア方針で望みます。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 職員の異動について、毎月のお知らせで写真付きでご家族へ報告した。多忙な家族や遠方の家族へ、いつでも連絡がとれるようLINEでつながり、文章や写真などのやり取りができるようにした。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 以前の事業所の所在地が災害指定区域に該当となったことから、令和5年4月に現在の場所に新築移転している。交通量の多い幹線道路の側道沿いに立地しているものの、建物の南側には田畑が広がり、遠方にある山並みを眺めることができるなど、のどかな環境となっている。移転に伴い、代表者と管理者が交代し、職員の入れ替わりもあったが、利用者は混乱することなく、穏やかな生活を送っている。また、包丁を使用して野菜の下ごしらえをしたり、掃除や食器洗い、配膳、下膳を手伝ったりするなど、入居前からの習慣を利用者に継続してもらえるような支援にも努めている。さらに、掃除機かけやモップの拭き掃除を職員と一緒にやるなど、利用者のできることや得意なことを活かした役割を担うなど、活き活きと生活を送る利用者の様子を見ることができた。コロナ禍や感染対策で活動に一定の制限が継続した間に移転となったことや、周辺に民家が少なくないこともあり、管理者は「地域との関係構築が課題である」と感じている。家族も事業所の移転に伴い、自宅から遠方となり、頻回な面会ができにくくなったことから、毎月便りを送付するほか、SNSのLINEを活用して、連絡を取り合うようになった家族もいる。</p>
--	---	--

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>I.その人らしい暮らしを支える</b>									
<b>(1)ケアマネジメント</b>									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	日常生活の会話の中から情報を得ている。	◎	/	◎	日々の生活の中で、職員は利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望などの聞き取りをしている。また、家族から意向などの情報を聞くこともある。把握した情報は、私の暮らし方シートなどに記載し、職員間で共有している。さらに、管理者は職員に対して、詳細な日常会話等を記録に残すように指導し、計画作成担当者は介護記録の中から、利用者の思いや意向をくみ取り、把握に努めている。
b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	表情や態度を観察し、職員間で情報交換している。	/	/	/	/		
c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	面会や電話などの際に、様子や言葉を伝えるようにしている。	/	/	/	/		
d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	本人の言葉をそのまま記録し、ケアプランに反映できるようにしている。	/	/	/	/		
e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	思いは変わるので、その時の思いを受け止めるようにしている。	/	/	/	/		
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入居前や入居後にも、本人や関係者から耳を傾け話を聞くようにしている。	/	/	◎	入居時に、管理者は利用者や家族と面談を行い、生活歴や馴染みの暮らし方等の聞き取りをしている。病院から入居に繋がる利用者もおり、聞き取りの場に看護師も同席し、病歴や病状等の医療情報を提供してもらったり、これまで関わってきた介護支援専門員や関係機関の担当者等から、サービス利用の経過や生活環境等を聞いたりすることもある。把握した情報は、アセスメントシートに記載するとともに、新たな情報を赤字で追記している。また、毎年アセスメントシートの情報を更新し、ADL表とセットで情報提供書としてファイルに綴じている。
b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	入居前や入居後にも、本人や関係者から耳を傾け話を聞くようにしている。	/	/	/	/		
c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に努めている。(生活環境・職員のかかわり等)	○	全体では同じ日課で生活している。個々の様子を観察し、本人に合わせた生活ペースで過ごせるように努めている。	/	/	/	/		
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	普段の会話の中や生活の様子から、思いを汲み取るようにしている。	/	/	◎	事前に、利用者から意見や意向を聞くとともに、詳細な記録から意向の把握に努めている。また、家族の意向を確認するとともに、主治医から意見やアドバイスをもらっている。アセスメント情報や把握した情報をもとに、担当者会議等の中で、利用者の視点に立って、より良いサービスの提供を検討している。
b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	○	担当者会議を行っている。	/	/	/	/		
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人の思いや意向を聞き取ることは難しいが、普段の会話の中から汲み取り、プランに反映するようにしている。	/	/	/	職員の勤務体制等の都合で、全ての職員が集まる機会が少なく、計画作成担当者は2日にわたって、職員と意見交換をするなど、幅広い情報収集に努めている。アセスメント情報や把握した情報をもとに、計画作成担当者が介護計画の原案を作成するとともに、担当者会議の中で、意見を出し合いながら話し合い、計画を作成している。訪問調査日には、利用者や家族の意向を反映し、より良い暮らしを送るための課題解決に向けた個別性のある計画を確認することができた。
b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人や家族の思いを確認後、担当者会議を行い話し合っ作成している。	◎	/	/	◎		
c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	重度になっても全てができなくなるわけではない。どうすればできるか考えて援助している。	/	/	/	/		
d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	病院受診や外出援助を可能な家族は行っているが、地域の方との交流はコロナ流行以降ない。	/	/	/	/		

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	普段記録しているファイルに掲示し、いつでも見れるようにしている。	/	/	◎	一人ひとりの利用者の介護計画は、担当者会議の中で、内容を職員間で共有している。また、計画のサービス内容等はモニタリング表に記載するとともに、日課表と併せて個別ファイルに綴じられ、日々利用者の日課を確認する際に、計画の内容を職員と一緒に確認できるようにしている。介護記録には、ケアの実践内容のほか、利用者との会話も記録に残され、計画作成担当者は介護記録から支援経過をまとめ、モニタリングに活用している。管理者は、サービス内容の実践結果までを記録するように職員への指導が行われ、現在の記録内容は、まだまだ不十分と感じている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	出来事に記録し、職員間で状況確認、検討し、日々の支援につなげている。	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	行っている。	/	/	◎	短期目標の期間に応じて、6か月に1回介護計画の見直しをしている。また、新たな要望や変化が見られない場合にも、毎月全ての利用者のモニタリングを実施し、現状を確認している。さらに、利用者の心身の状況に変化が見られた場合には、必要に応じて関係者で話し合い、現状に即した介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	毎月、モニタリングを行っている。	/	/	◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	変化があった時は、家族等関係者へ連絡し、必要に応じてプランの変更、介護保険変更申請等の支援を行っている。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	出勤している職員間で話し合いをしている。今後は職員全員が集まり、定期的に検討できるよう考えている。	/	/	○	以前は事業所が山間部にあり、職員の居住地や家庭の事情等で定期的に職員が集まる会議の開催は難しく、必要に応じてその日の出勤職員で話し合い、申し送りの中で、日誌や口頭で情報伝達をしていたが、令和5年4月に現在の場所に移転し、体制が整ったことから、令和7年1月から、全ての職員を参加対象として、定期的にミーティングが開催できるようになっている。前回のミーティングの開催前には、「対応に困っていること、検討したいこと」を事前に職員に提出してもらい、全ての利用者の課題解決等に向けた検討をしている。また、議事録を回覧し、確認後に職員は押印することで、職員間で内容を共有している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	△	日々のケアに追われ、立ち話しとなっている。落ちついて話し合いができる場を作れたらと思う。	/	/	○	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	△	個別に意見を聞き、まとめている。全ての職員が一度に集まり会議を行うことはできていない。今後は、日時を決めて開催することを考えている。	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達		日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	日誌へ記録、申し送りは行っているが、漏れもある。	◎	/	○	利用者に関することや業務連絡などは、グループホーム日誌に記録し、1日3回の勤務交代時に繰り返し申し送りをしている。時には、職員間での伝達漏れも見受けられ、管理者は伝達の工夫の必要性を感じている。
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にされた支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	受け身な利用者さんが多い。○○しようにと言われた時には、それが行えるよう可能な範囲で支援している。	/	/	/	事業所として、利用者の大まかな日課を決めているものの、一人ひとりの生活リズムや思いを尊重した支援を心がけている。調理の下ごしらえの際に、玉葱を切るのが嫌で人参を切る利用者があるほか、レクリエーションのクラフト作成をしたくない利用者があるなど、職員から声をかけ、利用者のしたいことや参加の有無などを確認し、自己決定や選択できるよう支援している。訪問調査日には、ピーラーで人参の皮を剥いて包丁で切ったり、洗濯物を干したり、利用者全員の口腔ケア用のコップを洗って片付けるなど、思い思いに過ごす利用者様を見ることができた。時には、窓際で外を眺めて過ごす利用者もいる。また、家族やペットなどの話題を提供して、利用者の笑顔が見られたり、テレビを漫然と付けたままにしておくことなく、朝の連続テレビ小説や相撲、箱根駅伝、懐かしい音楽番組などのチャンネルを選択したりするなど、季節を感じて、楽しめるよう工夫している。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	◎	自己決定できるような会話や声かけを行っている。	/	/	◎	
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にされた支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	大まかな日課は決めているが、声かけを行い、本人の意見を尊重するようにしている。	/	/	/	
		d	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	◎	本人の好きそうな話をする。五感を大事にして接している。	/	/	/	
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	◎	表情や態度を観察し思いを感じ取り、分からない時は職員間で話し合い、支援している。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にされた言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮、目立たずさりげない言葉かけや対応等)	△	難聴の方には大きな声で声かけており、プライバシーに欠けている面もある。	◎	◎	○	計画的に実施する内部研修の中で、利用者の人権や尊厳等を学び、職員の理解促進に繋がっている。利用者のプライバシーを大切にされた声かけや意識した言動に努めるとともに、特に、職員は入浴時や排泄時の支援に気を付けている。時には、難聴の利用者に対して、職員がつい大きな声を出してしまう場面も見られ、管理者はその都度該当職員に注意喚起をしている。また、居室に入室する際に、事前に職員はノックや声かけをしてから入室しているが、不在時に洗濯物を居室に持ち込む際に、事前に声かけを忘れることが見受けられたため、現在は利用者と一緒に入室し、なるべく利用者自身が衣類等をタンスにしまうようにしている。
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	確認や観察を優先し、配慮に欠けている面もある。	/	/	/	
		c	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	本人への声かけやノックを心掛けているが、忘れていた時もある。	/	/	○	
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	理解し、遵守している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	「ありがとうございます」「助かります」など分かりやすい言葉で伝え、互いに感謝し合っている。	/	/	/	時間帯により、気分が波がある利用者があり、言い合いなどのトラブルが生じることがあるため、日頃から職員は注意深く様子を観察し、必要に応じて早期に利用者同士の間に入って話を聞いたり、性格や相性で配席を考慮して決めたりするなどの対応をしている。また、食器洗いの際に、作業を分担して協力したり、自分の居室が分からなくなった利用者に、他の利用者がベッドまで付き添い、布団を掛けたりするなど、利用者同士の助け合いや支え合う場面も見られる。訪問調査日には、おやつ後に、仲の良い利用者同士が相談しながらリーダーシップをとり、利用者全員で童謡を歌う様子が見られた。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	協力し合って達成できることや寄り添うことで、さみしさを和らげ、安心感が生まれている。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらつ場面をつくる等)。	○	職員が介入しすぎないよう気を付けて支援している。また、孤立しないよう声かけを行っているが、集団への参加を無理強いはいしない。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	寄り添い、気分転換となるかわりを持つような支援を行っている。	/	/	/	
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	入居して数年経ってから得る情報もある。本人との会話から得る情報もある。	/	/	/	
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていったりなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	入居当初は知人や友人が訪ねてきたが、年数の経過とともに関係が薄れていく。携帯電話を使う利用者は、知人や友人と連絡をとっている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	コロナウイルス感染症が流行して以降、病院以外の外出は控えている。人気をさけて、花見や初詣、ドライブへ出かけた。	◎	×	○	感染対策が続き、基本的に、病院受診以外の外出は控えているものの、近隣にある神社まで初詣に歩いて出かけた。季節に応じて、ドライブをして桜や秋桜などの花を見に行くなど、少しでも気分転換を図れるよう支援している。また、感染対策に注意を払い、家族との外出を可能にしている。訪問調査時点では気温が低く、利用者の希望に応じて庭に出たり、テラスに出て洗濯物を干したりすることもあるものの、寒くてすぐに建物中に戻る利用者が多く見られる。今後は、感染状況を見計らいながら、日常的な外出支援が再開されるように、職員間で検討していくことを期待したい。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	数名の利用者は、家族と外出する機会がある。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	◎	要因を考え、不安などを軽減できるようなケアを行っている。	/	/	/	職員は一人ひとりの利用者の心身状況を把握し、能力を活かせるような支援を心掛けている。中には、職員の優しさから、自分ができるところまで、手や口を出してしまうこともあるため、日頃から管理者は見守りや待つ介護の実践を指導するとともに、必要に応じて、介護計画の目標やサービス内容に取り入れた支援に努めている。訪問調査日には、調理の下ごしらえや配膳、下膳、食器洗い、テーブル拭きなどの役割を担う多くの利用者を見ることができた。また、在宅酸素を使用し、100歳を迎えた利用者も、居室に閉じこもらずに、車いすに座りながら、他の利用者と一緒に包丁を使用して野菜の下ごしらえをする様子も見られた。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	◎	利用者の様子を観察し、できる能力を活かせるケアを行っている。体温調整の面では、室温の調整、衣類の調節、湯たんぽやひざ掛けを活用した援助をしている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	「一緒にしましょう」と声かけし、軌道に乗ったところで離れて見守るようにしている。	◎	/	◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	◎	アセスメントシートに記載し、情報を共有。利用者の興味のあるようなことを提供してみる。	/	/	/	利用者にやりたいことを聞いた際にも、希望等が出されることはほとんどない。洗濯物干しやたたみ、調理の下ごしらえ、配膳、後片付け、掃除機掛け、モップの拭き掃除など、職員は利用者に声をかけ、得意な役割や出番を担えるよう支援している。また、手伝ってもらった後には、職員から利用者へ労いの声をかけると、利用者の活き活きとした表情も見られる。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	◎	役割りや出番を作ると生きがい、喜びにつながるので、機会を作っている。	○	◎	◎	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	本人の好みに合わせるようにしているが、気温に合っていない時は衣類調節のケアをしている。本人が利用できるよう化粧水などを準備している。	/	/	/	外出時に化粧をするほか、洗顔後に化粧水や保湿クリームをつけておしゃれを楽しむ利用者があり、職員はクリームを用意するなどのサポートをしている。食べこぼしや排泄後の衣服の乱れなどが見られた場合には、さりげなく職員が声を掛けて、更衣や手直しをしている。以前は、定期的な訪問理美容の来訪があったものの、現在は感染対策のため、職員が散髪を手伝うとともに、カラーの希望がある利用者のみが訪問美容を利用している。中には、家族と行きつけの美容室に出かける利用者もいるなど、好みの髪型に整えることができています。また、重度な状態の利用者にも、家族等からこだわりを聞き、本人らしさが保てるよう支援している。訪問調査日には、違和感のある装いの利用者は見られなかった。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	△	髪はホーム職員がカットしている。服は家族が購入している。家族ができない利用者は、職員が購入している。	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	本人が選べるような声かけを心掛けている。	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	◎	お正月や外出の時などの服選びを一緒にしている。	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	タイミングを大切に、整容の援助をしている。	◎	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	△	1名の方は、家族と外出時に散髪している。カラーを希望された利用者には、訪問美容室の手配をした。	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	元気な頃に気に入っていた服を着用する援助や清潔感のある髪型に整えたりしている。	/	/	○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	生活の中で一番の楽しみでもあり、体調につながることを理解し、ケアしている。	/	/	/	月3回、代表者が食材の買い出しに出かけ、届いた食材を利用者と職員と一緒に手分けをして冷蔵庫まで運び、野菜は切って冷凍するなど、保存ができるように下ごしらえをしている。利用者から希望のメニューを聞くとともに、冷蔵庫に残った食材を見て職員が献立を立て、足りない食材がある場合には、管理者が買い出しに出かけている。食材の下ごしらえや配膳、下膳、食器洗い、テーブル拭きなどを利用者にも手伝ってもらいながら、職員が調理をしている。現在はアレルギーのある利用者はいないものの、入居時にアレルギーの有無を確認し、必要に応じて代替品を用意している。茶碗や汁椀、箸等の食器類は、事業所で用意した物を使用するほか、馴染みの物を持ち込みで使用する利用者もいる。利用者の状況に応じて、滑りにくいお盆や持ち手のある軽い食器等を使用している。感染対策のため、食事の際に、職員は利用者と一緒に食事を摂ることを控え、見守りや声かけ、サポートをしている。職員同士と一緒に食事を摂ることもなく、個別に食事をしている。現在、寝たきりの利用者はいないものの、食事の直前までベッドで横になる利用者もおり、メニューの説明や声かけをしている。また、調理師免許を持つ職員が在籍し、調理方法等の助言をもらうことができている。定期的に行う血液検査の結果を見て、栄養状態等に問題がある利用者には、主治医に相談し、食事内容の見直しをしている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	買い物、献立、食材選び、調理は職員の考えが優先することが多い。食材に触れ献立を考えたり、調理補助や後片付けを利用者とともにやっている。	/	/	○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	野菜の皮をむく、切るなどの調理補助や食器洗い、拭きなどの片付けを利用者に行ってもらっている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	知り得た情報をアセスメントシートに記載し、情報共有している。	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	◎	旬の野菜、食材を使っている。	/	/	○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろいろや器の工夫等)	○	安全に食事、飲み込みができる形態にし提供している。器は持ちやすいように軽い物、使いやすい物にしている。	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	利用者によって使いやすい湯飲みにしている。	/	/	○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	コロナウイルス感染症が流行して以降、職員は利用者とは別に食事をとっている。職員が交代で、利用者の食事の見守り、声かけ、介助を行っている。	/	/	○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	食前の声かけ、朝昼夕何の食事か説明、雰囲気づくりに心掛けている。	◎	/	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	体重管理をし、必要に応じて栄養補助食を追加し、健康管理を行っている。	/	/	/	
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	栄養補助食を追加したり、スポーツドリンクへ差し換えたりしている。	/	/	/	
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	職員が検食を行い、メニューについても話したりする。栄養士はいない。	/	/	○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	衛生管理は日常的に行っている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	看護師より指導を受けている。	/	/	/	口腔ケアの重要性を理解し、毎食後に、職員は声をかけ、口腔ケアを実施している。利用者の状況に合わせて、スポンジブラシなどの口腔ケア用品を使用したり、できない部分をサポートしたり、職員は磨き残しを確認するなど、口腔内の清潔保持に努めている。拒否が強く、職員が介助できない利用者があるものの、口腔内のトラブルの訴えはなく、現在は様子を見ている。また、口腔内の痛みや出血等の不具合が見られた場合には、家族に相談し、早期の歯科受診に繋げている。さらに、リビングの洗面所には、利用者ごとの口腔ケア用品が収納され、毎日職員が歯ブラシを消毒し、毎月新しい物に交換している。	
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	自分で口腔ケアができ、見られることに抵抗のある利用者の口腔内は観察できていない。	/	/	/		○
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	◎	歯科往診医から指導を受けている。	/	/	/		/
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	適切に行えるよう、声かけや介助をしている。	/	/	/		/
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	◎	できることは行ってもらい、できないことは介助し、清潔が保持できるよう援助している。歯ブラシ以外にも、スポンジブラシや舌クリーンジェルなど、その人に合った物を準備している。	/	/	/		○
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	9名全員がおむつを使用している。自尊心を傷つけないように気を付けている。	/	/	/	事業所では、基本的にトイレで利用者が排泄できるよう支援している。日中に利用者全員が紙パンツを使用するとともに、職員は利用者の排泄パターンに応じて、声かけやトイレ誘導等を行っている。重度化に伴い、介助負担の大きい利用者もあり、腰痛のある職員が多い勤務帯には、長時間用のパッドを使用せざるを得ない状況もあり、事前に家族に相談して了承を得ている。職員から介護ロボット導入の要望が出されるなど、事業所として負担軽減や対策を検討している。	
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	便秘は心身に影響を及ぼすことから、看護師主導で排便コントロールをしている。	/	/	/		/
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	排泄チェック表や出来事に記載し、次のケアにつなげている。	/	/	/		/
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	排泄パターンや量などにより、おむつの見直しを行っている。	◎	/	/		○
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	△	力むことができない、指示が通らない利用者には、苦心している。	/	/	/		/
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	排泄チェック表を活用し、行っている。	/	/	/		/
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういつ時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	話し合うことは少ない。本人に合った物を職員で検討し、選んでいる。自分で使えるもの、サイズ、尿量などを考慮する。	/	/	/		/
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	時間帯や体調によって、使い分けている。	/	/	/		/
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	◎	腸活となる食べ物の提供や体操を行っている。トイレへ行く習慣づけとなるよう声かけを行っている。	/	/	/		/
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	△	入浴日は介助ができる職員の出勤日となっている。時間帯は本人に確認している。長さや温度は本人の好みに合わせるが、体への負担を考慮し声かけすることはある。	◎	/	○	週3回利用者が入浴できるよう支援している。介助が可能な職員の出勤日に、入浴支援が行われているため、入浴できる曜日までは固定していない。利用者の希望に応じて、入浴する時間帯の対応をしている。中には、入浴を拒む利用者もあり、清潔保持のために、声かけなどを工夫して、少なくとも週2回入浴できるよう支援している。さらに、リラックスをして入浴を楽しめるように、入浴剤を使用するほか、希望に応じて、湯温や湯船に浸かる時間などにも対応している。中には、身体への影響を考慮して、湯船に浸かる時間を3分と決めている利用者もいる。	
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	◎	入浴剤を使用し、リラックスできるようにしている。会話したり、ゆっくり湯船に浸かれるよう見守りしたりしている。	/	/	/		
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	本人のことは見守り、安全に入浴ができるよう援助している。	/	/	/		
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせずに気持ち良く入浴できるよう工夫している。	◎	無理強いはいしていない。時間をあけて声かけしたり、職員が交代し声かけてみたりしている。入浴したら気持ちいいことを伝えている。	/	/	/		
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	バイタルや睡眠の状態などを職員間で情報共有し、入浴の可否を判断している。	/	/	/		

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	夜間の状況を記録し、日勤者も確認している。	/	/	/	以前に、希望時のみ眠剤を服用する1名の利用者がいたものの、日中の眠気等の副作用が見られたため、利用者と相談し、現在は服薬を中止している。また、日中の活動量を増やしたり、短時間でも屋外に出て、外気や日光を浴びたりするなど、なるべく服薬に頼らずに、夜間に利用者が安眠できるよう支援している。さらに、利用者の過ごしたい生活リズムを尊重し、就寝時間は決めていないものの、現在は夜間覚醒して不眠を訴える利用者はいない。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	昼は活動的に過ごすことで夜間眠れるよう支援している。眠れないと薬を要求する利用者もいるが、転倒歴あり現在は眠剤は内服していない。	/	/	/	
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	往診医に報告、相談している。	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	本人の意思、表情や様子を観察し、個別に休息の時間を作っている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	3名の方は自分の携帯電話を所持している。家族からの電話を本人へつないでいる。家族から届いた手紙を本人へ渡している。年賀状を家族へ送った。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	不安な方は、電話の際に付き添い支援している。手紙が書けない方は、絵を切り貼りして年賀状を送った。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	携帯を所持している方は、自由にかけている。他の方は、電話がかかってくる取り次いでいる。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	本人へ渡している。贈り物が届いた時は、職員が電話をかけ本人が話せるよう援助している。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力してもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	△	お願いはしていないが、電話や手紙をくださっている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	理解はしている。	/	/	/	
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	買い物の外出支援は行っていない。	/	/	/	
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」など一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	紛失のリスクを伝え、本人より預かってほしいと希望され、預かったり、家族へ渡したりすることがあった。	/	/	/	
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	入居時は必要時に話し合っている。	/	/	/	
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	基本的に家族が金銭管理している。高額でない日用品の購入は、ホームが立て替え、利用料と一緒に請求している場合もある。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	受診介助、訪問美容室の手配、療養マッサージとの調整をしている。	◎	/	○	専門医の受診は家族に依頼しているが、同行ができない場合には、職員が同行支援の対応をしている。また、訪問美容や訪問マッサージの手配をすることもある。また、家族との外出希望などにも、柔軟に対応している。
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入ることができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	花壇に花を植え、玄関先に多肉植物を飾り、誰でも入りやすいようにしている。	◎	○	○	令和5年4月に、現在の場所に移転した事業所は、幹線道路の側道沿いに立地し、カラフルな看板も設置され、来訪者に分かりやすくなっている。道路沿いの事業所の出入口には、手入れされた花壇が設置され、玄関先に沢山の多肉植物を置くなど、親しみやすく明るい雰囲気を感じられる。

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	◎	季節や行事に合わせて、利用者と壁面を作り飾っている。	◎	◎	◎	新築移転された1ユニットの事業所は、リビングに面したテラス側にある大きな窓から明るい日差しが入り、テラスで洗濯物干しや外気浴をすることができるようになっている。リビングの壁面には、利用者と一緒に作成した季節の飾りつけが行われ、訪問調査日には、今年の干支と「ほかほか神社」のクラフト作品が飾られていた。また、広々としたリビングの中央にテーブルが並べられ、周囲に利用者の席を配置するとともに、対面式キッチンとの距離感も良く、利用者同士が協働しながら作業ができるようになっている。さらに、利用者が活動しやすいように、共用空間に必要な物品を配置し、日々の掃除や換気が行き届くなど、清潔で快適な空間となっている。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	毎日、利用者と共に掃除をしている。換気も1日数回行っている。			◎		
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	外気に触れたり、簡単ではあるが季節の行事(正月、節分、ハロウィン、クリスマスなど)を行っている。食事やおやつも季節に合わせて提供している。					○
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	席を考え配置している。居室で一人になれる時間もある。					
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	居室に家族写真や位牌、家族が持参された物などを置き、家族を感じられるようにしている。	◎		○	居室には電動ベッドやエアコン、クローゼット、タンス、掛け時計が備え付けられている。また、利用者は馴染みのものを持ち込むことができ、専用の掃除機を持ち込んでいる利用者もいる。100歳を迎えた利用者の居室には、主人との写真のほか、内閣総理大臣や県知事の表彰状、スタッフ手作りのお祝いの作品等が飾られていた。	
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	居室前には表札があり、覚えられない方の居室には花を目印したり、見えやすいように名前を明示している。車いすでも安全に移動できる動線を確保している。動線には手すりも設置している。			◎	建物内部はバリアフリー構造で、動線上に握りやすい手すりが設置されている。車いすの利用者も移動しやすいように、ゆとりのある空間が確保され、利用者は安心安全に移動することができる。また、居室の入口の表札は、利用者自身で名前を書くとともに、見えにくい利用者のドアに名前を大きく表示したり、目印のペーパーフラワーを飾るなど、認識しやすい工夫をしている。さらに、トイレのドアに大きな表示を付けるとともに、利用者の視線に合わせた高さに表示するなど、分かりやすい配慮も行われている。	
		b	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうし、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	◎	リビングに馴染みの物品をそろえ、自由に使えるようにしている。					
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)を理解し、日中は玄関に鍵をかけなくても済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	◎	日中、玄関に鍵はかけていない。玄関は死角となっており、防犯のためセンサーを設置し、人の出入りが分かるようにしている。利用者の状況を把握しており、外へ出そうな時間帯などを情報共有して見守りしている。	○	◎	◎	全ての職員は鍵を掛けることの弊害を理解し、日中に玄関の施錠をしておらず、夜間のみ、防犯のために施錠をしている。また、リビングから玄関は死角になっているため、ドアにはセンサーチャイムが設置され、職員が利用者や来訪者の出入りを分かりやすくしている。現在、午後2時頃に帰宅願望の出る利用者があり、職員は注意を払いながら見守りをしたり、一緒に外に出たり、ゆっくりと話を聞くなどの対応をしている。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	入居時に説明している。					
(4) 健康を維持するための支援										
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	入居前の病歴が分からない利用者もいる。家族も遠方で利用者のことを把握できていないため。					
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	出来事の記録し、申し送りを行う。看護師へ報告している。					
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	看護師へ報告し、かかりつけ医に相談。必要であれば、専門医につなげている。					
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	希望に合わせて対応している。	◎				
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	希望に合わせて対応している。					
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	通院の仕方はその都度家族と相談し決めている。受診結果もその都度家族へ報告または家族より聞き取りしている。					

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	情報提供書と共に口頭でも入院先の医師や看護師へ伝えている。	/	/	/	事業所では、「看取りに関する基本指針」を整備し、入居時には、利用者や家族に対して、終末期に事業所として対応できることなどを説明している。利用者の状況に変化が見られた場合には、その都度家族に状況を報告し、意向を確認している。重度化した場合には、家族の意向を往診医に伝え、往診医のいる病院で詳しい病状等を説明してもらうとともに、看護師から職員に援助方法等を説明するなど、支援方針を共有している。また、職員は往診医と夜間の連絡が取れないことに不安は残るものの、看護師と24時間のオンコール体制が整い、不安や負担の軽減に繋がっている。夜間に亡くなった場合でも、最期にお別れに来てくれる職員も多く、往診医が来訪するまでの時間に、家族と一緒に利用者を偲んでいる。
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	入院後も経過や退院の見通しを病院に確認している。	/	/	/	
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	日々の気づきを記録し口頭で看護師へ報告している。必要な時は往診医へも報告している。	/	/	/	
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	オンコールでいつでも連絡、相談できる体制がある。	/	/	/	
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	看護師より気を付ける観察点の助言を受け、援助している。	/	/	/	
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	薬に変更があった時、看護師より指導があり、観察し記録、報告している。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	職員2名で薬を確認。内服時には本人に名前を確認。確認を徹底するよう指導している。	/	/	/	
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	日々の様子を観察、記録し、看護師と相談。必要な時は往診医に相談している。	/	/	/	
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	入居時におおまかな方向性を話すことが多いが、体調が変わっていく際、その都度話し合っている。	/	/	/	
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	ホームで家族と話し合い、意思を往診医へ報告。医師からは家族に往診医の病院へ行っていただき、説明を受けてもらっている。	◎	/	◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかを見極めを行っている。	◎	職員の意思を確認後、ホームでできることを家族へ伝え、家族の意思確認をしている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	説明を行い、プランを作成し承認を得ている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	看取り後は職員で振り返りの機会を作っている。往診医との連携は難しい面もあり、職員も不安に感じている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	こまめに連絡をとり、状況を伝えるようにしている。最後まで援助し、遠方の家族へ遺骨を届けた。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	事業所内研修や感染症チェックリストを定期的実施している。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	防護服の着脱方法を実際に行った。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	○	感染症情報を確認し、外出や面会制限等行うか検討している。職員にも感染症予防に努めるよう、周知している。	/	/	/	
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	職員、利用者はこまめに手洗いをし、適宜消毒も行っている。来訪者にも消毒をお願いしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>II. 家族との支え合い</b>									
37	本人とともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	利用者の表情や様子が分かるように写真を送っている。	/	/	/	コロナの5類移行後も、法人の方針で感染対策を継続している。事前予約制で時間制限を設けた面会は、応接室でパーティション越しにしている。また、感染対策に注意を払い、家族との病院受診等の外出は可能となっている。事業所の移転により、自宅からの距離が遠方になった家族もあり、面会の頻度が少なくなっている。事業所では、毎月「お知らせ」として、利用者の写真と併せて、看護師や計画作成担当者からの状況報告を家族に送付している。さらに、SNSのLINEも活用しながら、日常の様子を写真や文書で伝えている。加えて、事業所の運営上の事柄や出来事は、運営推進会議の活動報告書を家族に送付するほか、職員の異動情報は、前回の目標達成計画に挙げて検討し、毎月の「お知らせ」の中に掲載し、家族の理解が得られている。家族の来訪時や電話連絡時には、職員から積極的に声をかけ、家族が話しやすい雰囲気づくりに努めている。
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	△	受診や外出の支援を、可能な家族はして下さっている。	×	/	△	
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	毎月お便りを家族へ送っている。他、LINEでも普段の様子を写真で送っている。	◎	/	◎	
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	面会時に本人様子や対応方法等について話している。また、気になる様子がある時は電話や来所をお願いし、説明している。	/	/	/	
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	職員の異動は、毎月のお知らせで伝えている。	◎	/	◎	
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	◎	転倒リスク等について説明し、対応策について職員間で話し合っている。行動制限することのデメリットを説明し、行わないようにしている。	/	/	/	
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	△	感染症予防のため、面会は応接室にて予約制、少人数でお願いしている。来所時には話しやすいよう、声のトーンなどに気を付け、対応している。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	契約の際に説明している。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退居先へ情報提供を行っている。	/	/	/	
<b>III. 地域との支え合い</b>									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	×	できていない。	/	○	/	令和5年4月に、現在の場所に事業所は移転し、地域との関係づくりを模索している。移転後には、子供会の「亥の子」の来訪はあったものの、幹線道路沿いの事業所周辺は、民家よりも店舗や会社の事務所が多く、日中に不在の家も多く、ほとんど地域との交流を図ることはできていない。また、運営推進会議を通して、区長や民生委員との関わりができてつつあるが、感染対策のため、書面開催の会議が続き、報告書を送付するのみとなっている。今後は、感染状況を見計らいながら、運営推進会議の開催方法を見直したり、会議の報告を行う際にも、ポストへの投函だけでなく、直接顔を合わせてコミュニケーションを図ったりするなど、地域との良好な関係性づくりに向けて、職員間で検討していくことを期待したい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△	区長や地域の民生委員さんへ、運営推進会議議事録を送り、ホームの様子などを伝えている。地域の子供が来所し、いのこを鑑賞した。	/	×	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	×	増えていない。	/	/	/	
		d	地域の方が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	地域の方が今困っていることを相談に来ることがあった。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常のおつきあいをしている。	×	できていない。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	ホーム長のつながりから、訪問や見学、歌を披露される方の来所があった。	/	/	/	
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	交番の警察官は定期的に来所される。消防署の方へ年2回の消防訓練の際に来所される。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	×	コロナ以降、書面での開催となっている。	○	/	△	事業所では、コロナ禍以降に感染対策が続き、対面形式で運営推進会議を開催することができていない。また、町行政に確認したところ、積極的な対面開催を勧められなかったため、町担当者や区長、民生委員、全ての家族に活動報告書を送付するのみに留まっている。今後は、書面開催であっても、一方的な報告に留まることなく、事業所の活動に対する意見や提案、要望等を聞く機会を設けるなど、幅広く意見を収集して、今後の運営に活かせるような取り組みが行われていくことを期待したい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	×	運営推進会議は書面での開催となっている。	/	○	○	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	×	運営推進会議は書面での開催となっている。	/	○	/	
<b>IV.より良い支援を行うための運営体制</b>									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	理念に基づいたケアが行えるよう、職員に周知している。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	利用者や家族には分かりやすく伝えている。	○	◎	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎	常勤は年2回、非常勤は年1回、最低でも研修を受けられるようにしている。	/	/	/	事業所の移転後に、代表者も交代をしている。代表者は、食材の買い出しをするほか、介護スタッフとして夜勤にも入ることもあり、申し送り時や来訪時に職員とコミュニケーションを図ることができている。また、計画的に内部研修を実施するとともに、外部研修等への参加費用を助成するなど、職員のスキルアップを図っている。さらに、職員から出された要望や提案は、管理者を通して代表者に伝えることができる。職員は、希望休の取得を含め、待遇面にも満足し、働きやすい職場環境と感じている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	事業所内研修を行っている。研修の案内を、職員に情報提供している。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	定期的に職員との個別ミーティングを行い、状況把握に努めている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	積極的に研修に参加できるように周知している。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	話しを聞く機会を作っている。	◎	◎	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見過ごされることがないように注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	◎	事業所内研修で学び、定期的に身体拘束や虐待を行っていないか職員全員で日頃のケア方法を見直している。	/	/	/	◎ 年4回身体拘束・虐待防止委員会を開催して、話し合いをするとともに、内部研修を実施し、職員への虐待防止等の理解促進に努めている。委員会として、「不適切な対応をしていないか、日々のケアの中で気づいたことはないか」などのアンケートを実施するとともに、職員のケアの振り返りや虐待防止等に繋げている。また、外部研修では、「虐待防止法の概要と予防の視点・カスタマーハラスメントについて」などを受講して、職員に受講内容を周知している。さらに、不適切なケアを発見した場合には、職員同士で注意し合うとともに、注意が難しい場合には管理者に報告し、該当職員に注意喚起をしている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	気になることはすぐに話し合うようにしている。	/	/	/	
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	△	管理者の力不足で、職員の疲労やストレスに気づけていない。体調確認の声かけは行っている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	事業所内研修にて学び、理解できるようにしている。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	事業所内研修で学び、定期的に身体拘束や虐待を行っていないか職員全員で日頃のケア方法を見直している。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施錠の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	家族から要望があったが、弊害について説明し、リスク回避方法を伝えた。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解したうえで、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	○	理解までは至っていないが、学ぶ機会は作っている。	/	/	/	
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	砥部町役場へ相談したが、利用までには至っていない。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	消防署へ申し込み、事業所で研修を受けた。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	初期対応方法を定期的に学んでいるが、実践力がついていないか…。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一步手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	事故報告書、ヒヤリハット報告書を作成し、職員に周知し検討、再発防止に努めている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	リスクについて検討し、注意点や対応について情報共有している。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	対応方法を職員に周知している。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	実際に砥部町役場へ相談、報告を行った。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	△	経過や今後のケアについてお話したが、納得は得られなかった。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	◎	個別に要望や苦情を聞き、丁寧に対応するように努めている。	◎	/	◎	日常の会話等から、個別に利用者から思いなどの聞いている。家族には、来訪時や電話連絡時等に声をかけて、要望を聞くよう努めている。また、日常業務の中で、管理者は職員と話す時間を設けて、気になる職員に個別に面談する機会を設けて、相談に応じている。内容により、職員は看護師に相談することもあり、必要に応じて、助言等を職員間で共有している。さらに、管理者が職員から要望や意見、提案を聞くこともあり、利用者により良い支援が行えるよう前向きに検討している。
		b	契約当初だけでなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	必要に応じて、情報提供している。	/	/	/	
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	事業所へ足を運び、職員と直接話している。	/	/	/	
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	相談しやすいように心がけ、良い支援が行えるよう話し合っている。	/	/	◎	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	取り組んでいる。	/	/	/	外部評価の自己評価は、全ての職員に記入してもらい、管理者が出された意見を取りまとめて作成している。また、外部評価のサービス評価結果や目標達成計画は、運営推進会議の中で報告しているが、書面開催の会議が続いたこともあり、一方的な報告となっている。今後は、感染状況を見計らいながら、会議の参加メンバーからの意見を収集する機会を設けたり、目標の達成状況も報告して、意見をもらったりするなど、出された意見をより良い支援等に反映していくことも期待される。
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	目標を立て、達成に向けて取り組むようにしている。	/	/	/	
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	評価後は報告し、意見をいただくようにしている。	○	◎	○	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	あまりできていない。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	マニュアルを作成している。	/	/	/	事業所では、各種災害マニュアルを作成し、年2回消防避難訓練を実施している。また、外部の救命講習を受講したり、食料などの備蓄品を確保したりするなど、災害の発生時に備えているものの、普段から地域住民や家族と関わる機会が少なく、十分な理解までは得られていない。今後は、地域の情報を収集し、地域の防災訓練に参加協力したり、家族に訓練への参加を呼びかけたりするなど、地域住民や近隣の他事業所、家族との連携を図り、少しずつ災害時における協力支援体制の構築に向けた取り組みが行われていくことを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	昼、夜間を想定した消防訓練を実施した。	/	/	/	
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	定期的に行っている。	/	/	/	
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	消防訓練は行っているが、地域への訓練参加はできていない。区長へ訓練の機会があったらお知らせいただくようお願いした。	x	x	△	
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	x	訓練へ参加できていない。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	x	できていない。	/	/	/	令和5年4月に、現在の場所に新築移転された事業所は、地域から認知度は低い状況となっている。現在は、区長や民生委員との関係構築を図るほか、積極的な相談支援の実施までには至っていないものの、相談があった場合には快く対応するほか、必要に応じて、地域包括支援センターなどの関係機関に繋げている。また、地域包括支援センターが主催する勉強会に参加したり、成年後見人の相談を受けたりするなど、平時から町行政や地域包括支援センターとの連携を図ることができている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	相談があった時に支援を行っている。	/	○	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	x	行っていない。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	x	行っていない。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	x	行っていない。	/	/	○	